

第116回『謳粹会』の記

開催 日時 平成20年4月12日(木)

場所：土浦市川口[HOTEL CANKOH(霞ヶ浦観光ホテル)]

ホテル4階の会場に入ると、正面は霞ヶ浦に面しており、窓から土浦港が見える。小学生の頃、ここに「あやめ丸」、「さつき丸」という名の定期船が就航しており、鹿島・香取の遠足の折、乗船したのだったが、世の中にはまあ、なんと、大きな船があるものだと思直に感激したのを昨日のように記憶している、500トン程度だったのだろうか。

向かって右側の窓からは、当時「ドック」と呼んでいたところ、今はなんというのだろうか、長方形の水域があり、たくさんのヨットが係留されている、ヨットハーバーというのだろうか。

本日ご参加の野村ルナさん(昭和38)の説明によれば、そのドックの左奥には土浦一高のヨット部の艇庫があるという。

野村さんは、ご承知のように母校どころか、県内高校ヨットのレベルアップに大変貢献した人物(常陽新聞社、「母校讃歌」)であり、「勉強もスポーツも」の理想を体現された方である。この延長線上にて、将来、母校が甲子園に再出場することを熱望してやまない。

会は、恒例により、初参加で最年少の平9卒の青山大人氏の乾杯の音頭で始まる。

同氏は29歳の県会議員、無駄なぜい肉は見当たらず精悍、そのキャッチフレーズは「土浦から巻き起こせ！！～若い力でしがらみ一掃～」、どうか政治の世界でも、たるみのない引き締まった利益誘導型でないさわやかな活動をお願いしたい。



料理は和洋盛込み料理、内容は後述の「本日の料理」の通り、味はそれぞれ美味なのではあるが、世話役としては、もっと郷土的な料理、ワカサギとか白魚とかのこれぞ霞ヶ浦というような地元料理が欲しかったと思うのだが、僻目だろうか。

酒は持ち込み可とのことにて、昭31卒の酔夢・横手一郎氏に手配をお願いしたが、「霧筑波」、「一人娘さやか」も選ばれていた、さすが酔夢。この二銘柄は平成10年9月の第一回謳粹会にも供された地元産の超一級名品であり、これは大満足であった。

参加者は30名、地元土浦からも多数ご参加をいただき、賑やかではあったが、仲間同士まとまっただけの着席となってしまう、もっと全体での交流ができるよう配慮せねばと反省させられた。

4月の例会場については、前年まで市内の霞月楼で行っていたが、♪筑波の山のいや高く 霞ヶ浦のいや広く・・・♪の校歌通り、筑波山や霞ヶ浦を眺めながら春を楽しもうと HOTEL CANKOH を選んだのであったが、眺めはよしとして、広さにおいてはさすが霞ヶ浦観光ホテル、会場に4卓の大丸テーブルを配置しても、それでもゆったり・スカスカ、正に“霞ヶ浦のいや広く”を表現し、客をもてなすような会場なのではあった。
(31年 露木修記)

◎本日の料理

- 1、(洋) 白菜とホタテのマリネ
- 2、(和) 蓮根うどんと春野菜山葵マヨネージ和え
- 3、(和) がんもと野菜の炊き合わせ
- 4、(洋) 鰈と茄子の青菜
- 5、(和) 鱈塩焼きおろしポン酢
- 6、(洋) 豚肉と竹の子の煮込み
- 7、(和) いなりと茶巾寿司
- 8、(洋) 桜のロールケーキ

◎本日のお酒

- 1、純米酒 霧筑波
- 2、純米酒 吟醸一人娘さやか
- 3、純米酒 越乃景虎
- 4、純米酒 天狗舞
- 5、純米酒 花の舞 (昭31山田 晴康氏提供)

◎出席者

(昭31卒)
 飯岡 仁、 大野 金一、 熊木 士郎、 倉持 功、 栗原 秀男
 郡司 賢一、 小林 将城、 小松崎 暁、 酒井 隆二、 関 孝之
 高野 久弘、 露木 修、 中村 信秀、 中本 青士、 沼尻 正信
 蓮 幸治、 武藤 明、 本川 軍司、 山田 邦夫、 山田 晴康
 山本 嘉子、 横手 一郎、
 (昭36卒) (昭38卒) (昭41卒)
 栗原 凱三、 野村 ルナ、 相澤 興二、 飯塚 泰助、 高山 了
 長戸 琴、 安井 恵子
 (平成9年) 青山 大人 以上30名